交差点のカラー舗装化について

山田　裕一

〔質問〕交通事故は最悪、一瞬で尊い人命を奪ってしまうことにもなる。本市においても、各地区の交通安全協会や交通指導隊の皆さんが街頭などでさまざまな交通事故防止の活動を行っている。

本市における平成27年1月から12月の累計では、死亡者が1名、人身事故が68件、負傷者は重症者を含め87名、物損を含めた事故発生件数が738件に上っている。

つまり、一日平均で2件以上の交通事故が発生していることになる。

交通事故防止策の一環として、交差点をカラー舗装にすることで、事故抑止の効果があるとの実証データがあることを知った。

そこで、本市も交通事故多発の交差点や見通しの悪い交差点などを計画的にカラー舗装化すべきと考えるが、市長の所見を伺う。

〔答弁〕【市長】交差点のカラー舗装は、ドライバーへの注意喚起を促すなど、交通安全対策として実効性のある手段であると認識している。

平成27年度において、市役所前や城下広場前、市道北無双作線の柳町踏切手前の交差点のカラー舗装化を実施した。

今後も、交通管理者である白石警察署と協議しながら、交通事故が多発している交差点の調査、また実施箇所の効果検証を行いながら計画的に進めていきたい。

◎平成28年度施政方針について

〔質問〕『平成31年度まで「出生率」の向上と「社会減」抑制のための各種施策を積極的に実施していく』とあるが、現実的に考えて「出生率向上」は、極めて難しいと考える。

市長は、あくまでも「出生率向上」を目指した施策を考えているのか所見を伺う。

〔答弁〕【市長】出生率向上は、なかなか容易でないと認識している。平成28年度は、子育て支援や教育環境の充実を図ることを第一義に考えている。

さらに、雇用や産業振興、まちづくり施策などを連携・連動しながら、将来を見据えた長期的観点に立った施策推進を目指していく。

平成28年度施政方針について

大野　栄光

〔質問〕民間機構の「日本創成会議」の人口統計は、本市の人口減少を指摘し、消滅可能性都市の自治体としている。市民にも問題提起し、解決策は見いだせないものか所見を伺う。

〔答弁〕【市長】市内の中高生、従業員の方約2千300名にまず意向調査を実施し、移住・定住に関する考え方を伺いました。

また、昨年の11月から各地区の公民館において、自治会長の皆さん方と懇談をさせていただいた。

本市においても、少子化と人口減少はとまらず、白石市まち・ひと・しごと創生「人口ビジョン」と「総合戦略」を策定し、人口減少の抑制による消滅可能性都市からの脱却を目標としているが、そこで次のことを伺う。

〔質問〕国は出生率を1.4人から1.8人としているが、本市において「出生率」の向上とその施策を講じているが、具体策について伺う。

〔答弁〕【市長】白石のまち・ひと・しごと創生総合戦略に盛り込んでいるすべての施策、これを出生率向上のための具体的な施策だと考えている。

◎ふるさと納税について

〔質問〕本市の返礼品である特産品のほかにも、観光資源が潜在している。

鎌先や小原温泉の泊まり券、きつね村、グリーンパーク、スキー場、こけし村といった自然コースも魅力ではないか。自然の中の子ぎつねは、愛らしく外国人も多く来園している。返礼品に組み合わせてもよいと思うが所見を伺う。

〔答弁〕【市長】現在、返礼品として市内の19の事業所から参加をいただいている。白石藩倶楽部の5コースを含めて47のコースの地場産品を活用している。

これを鋭意努力して皆さんのところに提供しているところである。

事業者側がこの返礼品にご協力いただけるかどうか、そして、返礼品としてどのように商品を提供できるのかと考える。

何かいい案があればお知らせいただきたい。

【その他の質問】

◎オリンピック招致について